

2000年 卒業研究要旨

学生間コミュニケーションの現状に関する一考察

ー携帯端末はどう利用されているのかー

中村 大輔

この卒業論文は、ここ数年あまりで急速に進歩、普及した携帯電話が、若者の生活や友人関係にどのような影響を与えているか、を分析し、論じたものである。現在私を含めて友人のほとんどが携帯電話を持っている。そして私にとって携帯電話はもはやなくてはならないものとなっている。しかし携帯電話が普及したのはほんのここ数年のことである。数年前まで、私たちは携帯電話がない生活を送っていたのである。たった数年で日本人の2人に1人が持つようになった携帯電話が私たちにもたらしたものは何なのだろうか。私たちの生活は以前とどのように変わったのだろうか。このような疑問が今回の論文を書くきっかけとなった。

研究目的としては、携帯電話の機能である音声通信と文字通信に着目し、携帯電話がつくりだすコミュニケーションとはどのようなものか探っていくこと、その上で若者の携帯電話の利用状況とそれともなう若者のコミュニケーションの仕方について明らかにすることをあげておくことにしたい。

そのために第1章では、固定電話から携帯電話への歴史的変遷をみたうえで、その次に一般加入電話についての先行研究を参考に、電話がつくりだす「空間」を人と人とのコミュニケーションの視点から考察していく。

第2章では、携帯電話の機能のひとつである文字通信機能に注目し、具体例を中心にメールが私たちにもたらした新たなコミュニケーションの仕方、それに関するマナーについて考察していく。

第3章では、既存の政府・企業による調査データを使い、現在の社会にいかに携帯電話が普及しているか、また利用されているか、を明らかにする。

最後に第4章では、2000年11月から12月に筆者自身が行った「携帯電話・PHS利用状況調査」を元にしたデータから、①大学生の携帯電話の利用状況、②携帯電話による大学生のコミュニケーション・マナーの変化、③携帯電話がもたらした友人関係、の3点について分析し、結論を結びたい。